

日本語タイトル

English Title

- 藝大 一郎 東京藝術大学
- 多摩二郎 多摩美術大学大学院
- 筑波三郎 筑波大学

- Geidai Ichiro :Tokyo University of the Arts
- Tama Jiro :Graduate School of Art & Design,
Tama Art University
- Tsukuba Saburo :University of Tsukuba

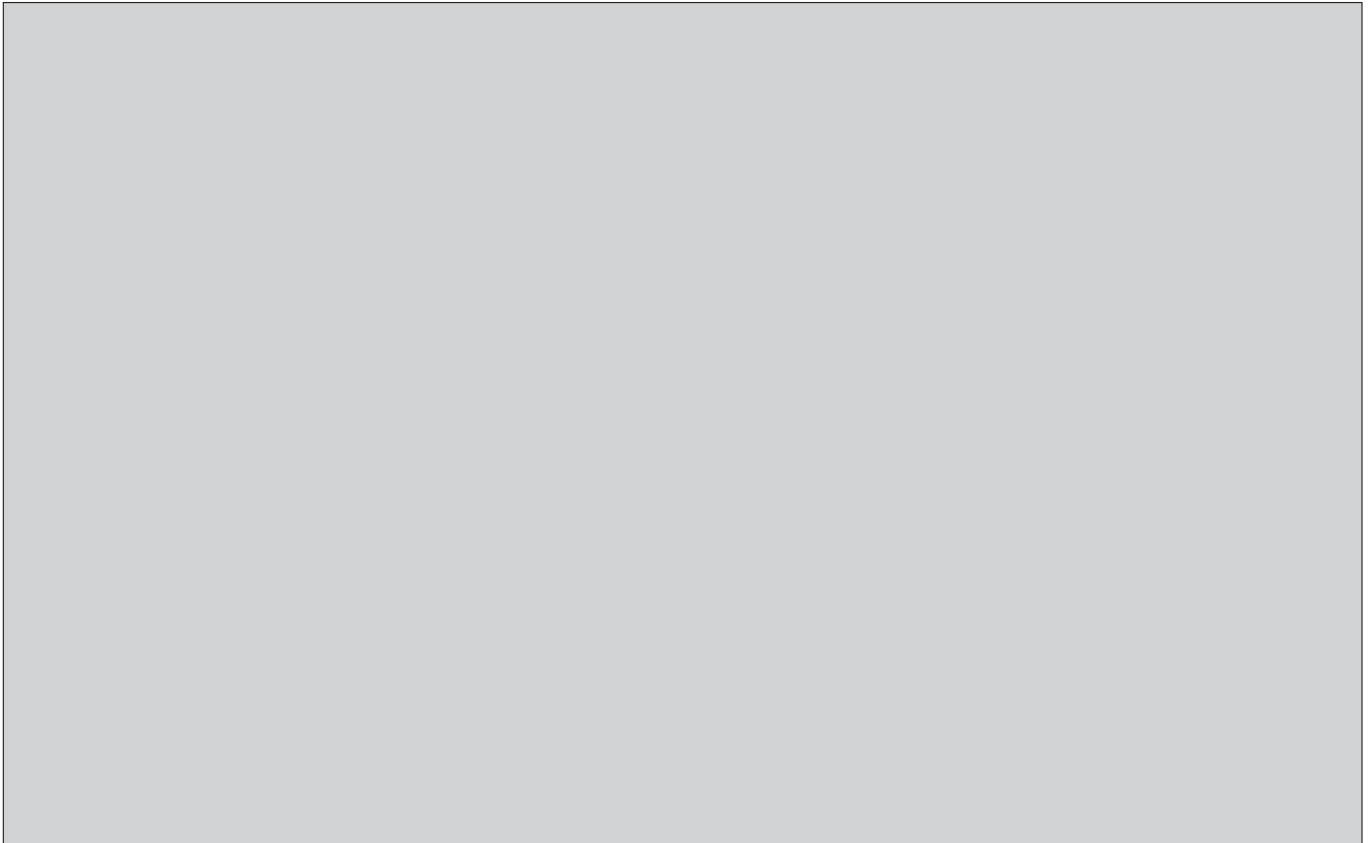


図1 図の説明文

要旨

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
 □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
 □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
 □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
 □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
 □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
 □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
 □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
 □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
 □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
 □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

Summary

about 150 words

You can copy and use the form.

1. はじめに

作品集は、「作品論文」と「作品ムービー」で構成する。日本語もしくは英語による完全版下原稿とする。製版後の校正は原則として不可能であるから、誤字や脱字がないよう、特に念を入れて仕上げる。製版後に「作品論文」を訂正する場合には、筆者がその経費を負担する。オーサリング後に「作品ムービー」を訂正することはできない。

「作品論文」は、標題、著者名、所属、要旨、図、表、注などを含め、刷り上がりを [4, 6 頁] のいずれかとする。刷り上がりは、最大6頁を越えてはならない。なお、提出する完全版下 (camera ready) 原稿には、必ず頁数を付す。

「作品ムービー」は、標題、著者名、所属を示すタイトル頁を含め、その長さは3分以内の尺とする。

標題は和文ならびに英文とする。特に、主題目は簡潔に、一見して研究論文の内容がよくわかるように工夫して記す。また、「・・・に関する研究 (III)」などの研究の連続性を示す標題は表題目とせず、副題目にする。英文標題においても、「Study on ...」などとすることは避け具体的に表現する。作品名などの固有名詞を標題に加える場合は、固有名詞を先頭に置きその後ろに「:」をつける。固有名詞は和文、英文 (アルファベット) のどちらでもよい。

著者名は、作品のデザインプロセスに直接的に参加した者も記載する。共著者は非会員でも可とするが、会員・非会員を明記すること。尚、謝辞の中で挙げるのが適当と思われる研究者を共同応募者扱いとすることは避ける。また、社名や組織名のみで個人名のないものは受け付けない。

2. 作品論文の標題・本文等の割付

2-1. 原稿フォーマット

学会 web サイトの投稿案内にある「原稿フォーマット」をダウンロードして利用し、[標題、著者名、所属、和文要旨 / 英文 Summary] の割付を行う。

2-2. 要旨

要旨は、作品を発表する上での主張が的確に理解できるよう、平易な文で簡潔に記述する。英文要旨 [Summary] は十分な校閲を経たものとする。査読の段階で不備が指摘された場合は、ネイティブチェックを受けた要旨 [Summary] を提出する。

2-3. 区分

原則として区分を設けて記述する。例えば、[はじめに、作品の内容とその価値、デザインのプロセスとその価値、主張と考察、おわりに、謝辞、注] など。

2-4. 章節の区分

原稿には、大見出し・章、中見出し・節、小見出し・項などを設け、それらを明瞭に区分する。大見出し・章が変わる時には、1行あけて、新しい大見出し・章に入る。なお、中見出し・節、小見出し・項が変わっても、1行あけない。大見出し・章、中見出し・節、小見出し・項などに使用する書

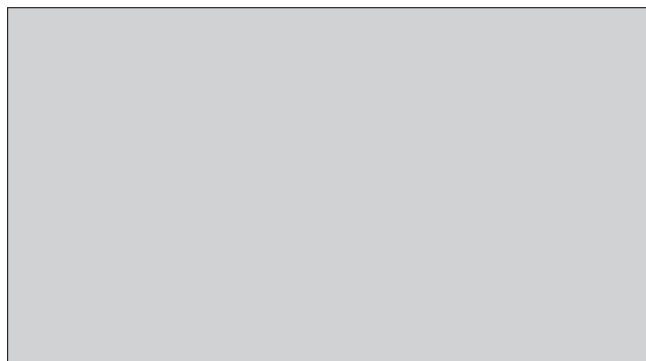


図2 図の説明文

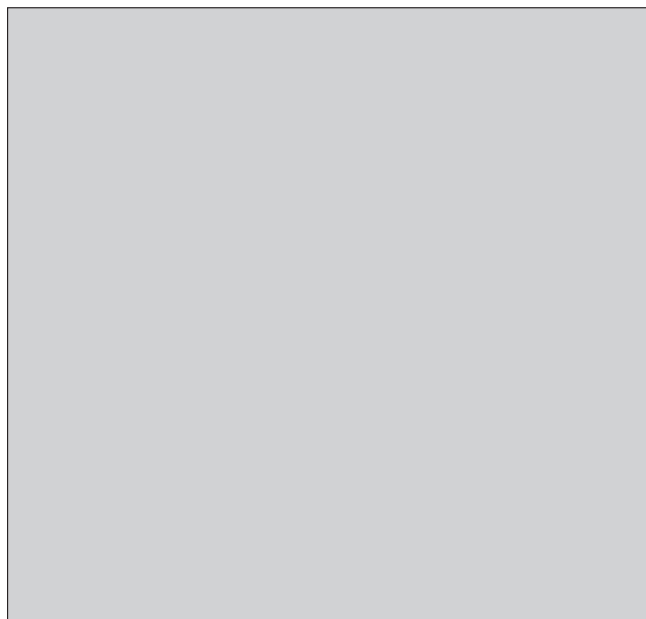


図3 図の説明文

体は [ゴシック体 : 8.5 ポイント] とする。大見出し・章は、1.、2.、3.、・・・、中見出し・節は、1-1.、1-2.、1-3.、・・・の記号を用い、本文は改行する。小見出し・項は、(1) (2) (3)・・・の記号を用い、改行せずに、1字あけて本文を続ける。さらに細分を要するときは、著者の分類に委ねる。

2-5. カタカナ表記

普通に用いられる外国語の術語はカタカナ表記とする (例えば、industrial design → インダストリアルデザイン)。ただし、カタカナ表記することによって字義が不明確になるおそれのあるものは、この限りではない。なお、欧字のまま記す必要がある場合には、例えば、Morris, idea のように、半角文字 (1コマ2文字) にする。

2-6. 数字表記

数字は原則として算用数字を用い、例えば 表1、図2、30cm、7g、1kg、1,258、5時間、80円のように記す。数字は、1桁の場合には全角文字、2桁以上の場合には半角文字を用いる。年号、月日は、原則として算用数字を用いる。